

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 南波 克典

学校教育目標		「命」と「心」を大切に、「夢」を描き、輝かしい「未来」に向け前進する生徒の育成			
推進主体		研究推進委員会			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	【国語】 ◇「表現技法の名称を書き、同じ技法が使われているものを選択する」という設問では、全国平均を20.8ポイント上回った。表現技法についてよく理解できている。 ◆「行書の特徴を理解する」問題について、全国の正答率より3.7ポイント上回っているが正答率が43.1%となっている。基本的な理解に課題があると考えられる。		
		算数・数学	【数学】 ◇「数と式」の領域の「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」を問う問題では正答率が84.3%で、全国平均を10ポイント上回っており、無回答もほとんどないことから、方程式を解く技術が身につけていると考えられる。 ◆データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。		
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	【生徒質問紙調査】 ◇「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と考えている生徒の比率が高い。 ◆「個別最適な学び」「協働的な学び」のためのツールとしてのICT活用が全国と比較して進んでいない状況にある。		
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	◇生徒たちは各自でしっかりと、目標を定めて取り組んでいる。 ◆学校評価アンケートに、定期考査の難易度が高すぎるという回答が見られた。指導と評価の一体化についての研究が課題である。		
授業等からうかがえる状況(各教科)	◇総じて落ち着いた授業態度である。 ◆「主体的・対話的で深い学び」の深化を図るための更なる研究が必要である。 ◆一人一台タブレット端末が支給されている。このICT機器を上手に活用して、主体的に学ぶ力を育成する研究が必要である。				
慣学・力生向上に慣る等の学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	◇学習に対して非常に意欲が高い生徒、自分で計画を立て、長時間学習に励んでいる生徒の比率が高い。 ◇学習にICT機器を使うことで効果があると思っている生徒の比率が高く、普段からICT機器を使用している生徒の比率も高い。	・主体的に学ぶ子どもの育成		
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	◆「学習指導」(学校評価アンケート)についての肯定的評価が、生徒は90.7%となっているが、保護者は80.7%と差がある。 ◆住んでいる地域の行事への参加がすくないという課題がある。コロナ禍がすぎ交流の場を設けることが増える。今後も、トライやるウィークをはじめとした学校行事や生徒会活動を通じ、積極的に地域との交流の機会をつくっていく。	・「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒70% 保護者70% 以上 ・タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合 ⇒90%		
校内の研究状況・研修	校内研究の状況	◇「個別最適な学びをめざしたICT教育」をテーマにタブレット端末を活用した授業づくりについて研究を推進している。 ◆「防災教育」「特色ある学校づくり」が課題である。	・「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・ゆりのき台中学校区学校園各種「連絡会」「研修会」の開催回数 ⇒計10回 以上		
	校内研修の状況	◇通常の研修に加え、タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学び実現のためのグループでの研修を推進する。	・「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・「学習指導」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・教員は互いに授業公開をして、技術の向上を図る。		
家庭・携校種間連	家庭・地域等の状況	◆家庭・地域との連携のもと、放課後や夏休みにタブレット端末を利用して学力補充を進める必要がある。	・「個別最適な学びをめざしたICT教育」~「ミライシード」の活用~をテーマに、研究に取り組む。 ・授業で週に一回程度の頻度でミライシードを活用する教員の割合を上げるよう、研修を持つ。		
	小・中における教科連携等の状況	◇小・中の教科ごとの連携から、キャリア教育と道徳教育を軸とした、系統性を重視したカリキュラム連携への発展を目指す。	・「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合: 全国学力・学習状況調査 ⇒80% ・「キャリア教育・進路指導」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合: 全国学力・学習状況調査 ⇒64.6% 去年度よりは微増したが、70パーセントという目標に達できなかった。2年生は「トライやる・ウィーク」実施して、地域の協力を得て色々な職業体験、文化体験ができています。こうした活動から、これからの肯定的回答が増えることが望まれる。		
		4月	2~3月		
		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標		
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価		
		・「キャリア教育」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒ 生徒90.2% 保護者71.9% 生徒の肯定的評価が90%以上、高い評価を得た。「キャリアパスポート」を核として「キャリア教育」の研究を校区内4小中学校で連携して推進している結果と思われる。 ◆保護者の肯定的回答は70%であり、目標に届かなかった。学校運営委員会では、質問の文に「トライやる・ウィークの職業調べの家庭での取組等、キーワードを乗せることの提言があった。保護者が、「ああ、あの取り組みだ。」と思いつくような丁寧で頻繁な情報発信に努めたい。 ◆「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合: 全国学力・学習状況調査⇒64.6% 去年度よりは微増したが、70パーセントという目標に達できなかった。2年生は「トライやる・ウィーク」実施して、地域の協力を得て色々な職業体験、文化体験ができています。こうした活動から、これからの肯定的回答が増えることが望まれる。	B		
		・ICT機器を活用して生徒たちの主体的な活動を引き出す授業を展開する。	・ICT機器を使うのは勉強の役に立つと考えている生徒の比率(全国学力・学習状況調査)を高く維持する。 ・ミライシードを活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付ける。ICT機器を活用して思考の可視化をする。 ・ミライシードの「ドリルパーク」を活用し、生徒の学習の定着状況に応じた個別最適化された学習の充実を図る。	○「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」: 全国学力・学習状況調査 と考えている生徒の比率は92.1%で高く維持できている。これからもミライシードを中心にタブレット端末の学習での活用を進めていきたい。	A
		・「変化の激しい時代を生き抜く力」を育む教育の推進	・「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒70% 保護者70% 以上 ・タブレットの使用等ICTを活用した学習活動をととして、情報活用能力の育成を図る。 ・伝統や文化に関する教育を推進し、特色ある学校づくりに努める。	・「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80.7% 保護者74.6% 特色のある学校は、本校が課題としてきた。質問に「地域や伝統に根ざした特色ある学校であるか」と伝統の字が入っている。そのことから低くなるのではと、学校運営委員会で提言があった。ニュータウンの特色を出していく地域では、伝統の字を抜いてもいいのではという意見ももらった。 ・タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合は9割を超えている。これからも授業での活用の仕方をお互いに研修していきたい。	A
		・主体的に学ぶ子どもの育成	・「学校教育目標の達成」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・「読書が好き」と答える生徒の割合: 全国学力・学習状況調査 ⇒70%	○「学校教育目標の達成」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒ 生徒91.7% 保護者85.8% 保護者の肯定的回答の割合も目標に達した。学校通信で真ん中にのせた学校教育目標が浸透してきている。 ◆「読書が好き」と答える生徒の割合: 全国学力・学習状況調査 65.5%で目標に達しなかった。 1・2年生は朝読書に取り組んでいる。また、「さんだっ子読書通帳」の活用により、読書活動の推進をしていく。 ○「タブレット端末」を授業はもとより2・3年生の朝学習に活用している、主体的に学ぶ力や個別最適化の学びにつなげていく。	A
		・育ちと学びをつなぐ教育の推進	・「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・ゆりのき台中学校区学校園各種「連絡会」「研修会」の開催回数 ⇒計10回 以上	○「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒ 生徒94.9% 保護者92.2% 肯定的評価が、保護者、生徒ともに90%以上となっている。ホームページを中心に学校の情報をできるだけ早く正確に伝えたことによるものと考えられる。 ○ゆりのき台中学校区学校園「連絡会」「研修会」は10回以上開催された。目標を達成できた。 学校長をはじめ生徒指導や特別支援教育、キャリア教育、コミュニティスクールの活動などで、小中学校間では定期的な会だけでなく、日常から必要に応じて連携を深めることができた。	A
		・教職員の資質向上	・「学習指導」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・教員は互いに授業公開をして、技術の向上を図る。	◆「学習指導」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート ⇒ 生徒89% 保護者76.9% 保護者の肯定的回答の割合が目標に達しなかった。今後も、オープンスクールなどを通じて、保護者に実際の授業を見てもらい理解を進めてもらいたい。 ○保健体育科、理科など各教科で県大会、市大会規模の研究授業が行われた。それにむけて相互に授業を公開を行い、授業力を高めることができた。教職員のタブレット端末をいかした個別最適化した授業へむけての資質が向上した。	B